

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	ゆっくり、一緒に、楽しく、そして地域との触れあいを。としている。	○	利用者様の負担にならないように、地域の方と交流の場所づくりをしたい。祭り、運動会、などの行事や災害時等の相談、地域の方とふれあう事のできる所へお出かけなど。
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	上記の理念を基に、取り組んでいる。	○	以前までは、業務内で、出ることが少なかったが、最近では職員の定着もあるためか、又理念が分かりやすくなった事で、管理者も話しやすくなった為共有でき、認識し働ける様になった。
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	玄関口に、理念を掲げたり、広報誌にて活動の様子を報告している。	○	今後は、家族の参加出来る場所作りをしていきたい
2. 地域との支えあい				
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	ご近所がなく、気軽なつきあいは難しいが、1階診療所へ出入りされる患者様や、2階デイケア利用者様との関係はあり。		
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	運営推進会議を通して、意見、指導して頂きながら地域の事を理解し勉強している。行事事の参加は、協力体制あり。	○	町内会長、社協との連絡もスムーズに行えるようになってきているが、まだまだこれからの段階。

グループホーム小野

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	母体の共和HPとの連携にて、健康フェアや栄養相談などの機会あり。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	少しずつではあるが、改善してきているのはいか？	○	GH内カンファや施設内ミーティングにて話題となる事もあり。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	初回に比べ、話の内容も充実してきており、出席者より、助言などの言葉も増えてきている。	○	意見を頂き、地域との関わり方などについてヒントをもらっている。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村との行き来する関係は、ないが今後は必要だと感じている。	○	10月29日の実地指導時、山科区役所の方より情報収集したことを基に、関係がもてるようにしていきたい。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	以前おられた方については、勉強させてもらいながらすすめたことはあるが、最近はない。	○	研修等で学ぶ必要あり。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	現在は、特に予定していないが、注意は必要だと思われる。	○	上記同様

グループホーム小野

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	その都度、行っている。	○ お互い、いい関係が保てるように努力していきたい。
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様と、話の出来る場所をつくり、希望などをもたらすこともあり。または、推進会議にて発言して頂くこともあり。または、苦情・相談シートにて報告している。	
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	面会時にて情報交換、月1回お手紙にてお知らせしている。または、広報誌年4回あり。	
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情箱の設置、アンケート、苦情・相談シートにて、カンファしている。	
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	GH内カンファ、施設内ミーティングにて実施。	
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	現実、柔軟な対応が出来ているかは、分からないが、努力はしている。	○ 管理者、ケアマネは介護職と兼務しているため、どちらかの業務がおろそかにならないようにしなくてはならない。
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	以前までは、職員が定着せず利用者様への影響も大きく、あったと思うが、現在定着してきている。	○ 面接時の、職員のやる気も必要だが、職場内の雰囲気や働きやすい環境作りも必要か？利用者様へのダメージについては、馴れたスタッフでフォローしているが、他の方法も学ぶ必要あり。

グループホーム小野

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>研修回数も、職員の定着につれ確保できてきている。</p>	<p>○</p> <p>施設内研修の実施今後も継続し行っていく予定あり。</p>
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>グループホーム協議会等での交流、勉強会あり。</p>	<p>○</p> <p>地域との交流会も必要なため、今後検討していきたい。</p>
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>親睦会などあり。</p>	
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>最近、実地指導もあり、指摘されている。アセスメントが少ないため分かりにくいとのこと。</p>	<p>○</p> <p>ケアマネも、経験がないため、今後は、京都市の方より指導の予定。</p>
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>上記同様、これからの課題である。</p>	

グループホーム小野

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時、ケアマネ、管理者とで相談し判定会議前に他のサービス向きの方へは、ご相談させて頂くように努めている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	面会時、一度は来所して頂き、本人の様子を見せて頂き馴染めるか？の判断もさせていただいている。	○	それでも、馴染めず退居になったケースあり。今後の課題である。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	外出時や、日々の時間を過ごしていく中で、自然に支えあう関係を発見することあり。例えば、作業の際に花の意味を教えることや、洗濯物お手伝いの際に、教えることなどなど。	○	今後、今より一緒の時間を増やす必要あり。なるべく1対1が理想であるが…。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	面会時や電話又は、お手紙にて情報交換している。	○	なるべく多く、家族、利用者、職員で楽しめる場所を作りたい。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	上記同様		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会をして頂いたり、ハガキのやりとり等		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	集団生活となると、お互い好き嫌いが出てくる為、職員が中に入ること、関わりがもてるようにつとめている。	○	外出時など、いつも関わっていない方とも出かけられるように調整したりしている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退居後、在宅に帰られた方などについては、相談等のおつきあいとなっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ケアマネの情報収集と、職員との情報を取り入れ、又家族様とも相談しながら、検討している。	○	アセスメント表などの、見直しをしていきたい。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	なるべく、面接時に情報頂くようにしているが、不足部分多くあり。これからの課題である。	○	ケアマネを中心に、勉強会や研修行っていく必要性あり。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	日課表や、ADL状況の内容を残していくようにしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人の希望や思いなどを中心に、計画作成を心がけてはいるが、内容の不十分性が感じられる。	○	ケアマネを、中心に、介護計画の理解をしていく必要あり。京都市より、指導予定。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	利用者変化時は、見直しするようにしている。	○	上記同様、介護計画の内容など書き方の指導予定あり。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録は、行っているが気づきや工夫に関しては、少ない為、どのように残していくかの検討が必要。	○	情報の共有の方法として、記録に残していく方法もあるが、見落としのないようにわかりやすく共有できる方法を検討したい。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	母体である共和HPが近い為、体調不良時や日々の診察時、又、不安な事のある場合は、相談や診察がスムーズに行える。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	今のところ、本人の意向としてはないが、運営推進会議の参加や、避難訓練などで協力あり。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	特に、今のところ他のサービスとの連携はないが、同施設内の通りハへ参加したり、居宅ケアマネと相談などは、時々あり。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	協働はないが、運営推進会議の参加と、お互い相談などはあり。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時、かかりつけ医の確認は必ず行っている。希望に沿ったかたちで、対応している。		

グループホーム小野

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>	○	医師と相談しやすい関係を築く必要あり。
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>		
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	上記同様	
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	対応の方法などについては、研修などで学んだりしており、職員一人一人注意、心がけるようにしている。個人情報については、秘守義務の誓約あり。	○ 認知症の方との話し方、対応の方法など職員間での話し合い、勉強会の必要性あり。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	なるべく、利用者様の希望などを聞く場所、雰囲気をつくるようにはしているが、うまくいかないときもあり、逆に利用者様へ気を遣わせていることもあり。	○ 職員一人一人が、利用者様をしっかりと理解することが必要。
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	介護計画に沿った、動きをするように日々、日常の業務の進め方、その日の出勤者同士声かけしながら、利用者様の状況に合わせて、対応するよう努めている。	○ いつも、このような動きができるような、職員の勤務体制作りが必要。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	本人の望む、理容・美容室については、行けておらず、施設内へ訪問理容してもらっている。他のお店への利用に関しては、家族へ協力して頂いている。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	好き、嫌いを聞きメニューを考えるように努めている。又、味見やアドバイスをもらいながら準備している。	○ 時には、利用者皆がなるべく参加して頂けるような、お好み焼きや、手巻き、バイキング、流しそうめんなど楽しみを感じていただけるように、努めている。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	買い物の際に、お好きな物を買って頂くことはある。又、食べたい物の要求時は、支障がない限り楽しんでいただいている。	

グループホーム小野

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	本人からの希望や、家族から家での話を聞くことで、混乱なく排泄していただける努力をしている。	○	利用者の性格、行動を知ることで今後も、気持ち良く排泄していただける様継続していきたい。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	特に、日にちは決めていないが、2, 3日空いている方に関しては、こちらから声かけするようにしている。又、無理な場合は、様子を見ながら再度試みるように努めている。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	本人が眠れるように、配慮し安心していただけるまでおつきあいするように、努めている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	1日の中での、役割を見つけ出し、なるべく職員と一緒に楽しみながら又、他の利用者とも関わりがもてるように努めている。	○	業務に追われる事のないように、配慮し職員間での声かけや、助け合いながら行うことが重要なため、職員一人一人の理解も必要。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本、施設にて預かりとさせて頂いているが、本人の希望の際は、家族へ無くなる可能性もあることを理解して頂き、所持してもらっている。又、買い物の際は、ご自分でも買い物して頂けるよう援助あり。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	全員は、無理であるが希望時や不公平がでないように、平均して出かけられるように努めている。	○	希望時、状況によりすぐ出かけられないこともあり。その際は、少し待ってもらうこともあり。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	利用者へ、行ってみたい所や会話の中で、興味のある部分を聞き出し、業務カンファ内で話し、月1回から2回くらいで、普段の外出とは別の企画を支援している。		

グループホーム小野

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話に関しては、支障のない限り、家族の承諾のうえしていただいている。また、手紙についても電話と同様である。	○	年末、年賀はがきを全員が書いて頂けるように、支援している。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	訪問の際は、居室またはゆっくり話ができる場所で、会ってもらえるように支援している。また、お茶やお菓子をお出しし、楽しいひとときを過ごさせて頂けるよう努めている。	○	家族、知人等の持ち込みなどのある場合は、他の利用者に影響のないよう、居室内にて楽しんで頂けるよう努めている。
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会を中心に、勉強会や身体拘束についての理解、認識を日々話し合えるように努めている。	○	身体拘束委員会でも、どのようにすすめて行けば良いのか検討中ではあるが、施設内で考えられる項目をだし。その項目に沿って、取り組んでいる。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	エレベーターの暗証番号あり。	○	職員全員、空間的な拘束との認識はあるものの、不審者の侵入が相継いであり、また簡単にはエレベーター解除できずにいるため、現在までできている。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	いつもの様子と違う時や、決まった場所におられない場合など、安全である事を確認するよにしている。	○	まずは、職員間での声かけが重要。何かする際は、話し合うように努めている。
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	居室内洗面所あるため、手洗い用石鹸あり。今のところ皆さん危険なく、使用されているが、危険のありそうな方に関しては、職員の方で対応している。	○	現在、居室内に裁縫道具お持ちの方3名程おられる、お裁縫される際は、なるべく職員と一緒に基本としているが、そうでない時は、お裁縫中である事を確認し、訪室の際に危険のないことの確認するようにしている。
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	マニュアルあり。	○	施設内研修や、看護職などより指導も必要。

グループホーム小野

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	避難訓練はあるが、応急手当の定期的な訓練はとくにない。	○	上記同様
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練あり。地域に関しては、消防署より指導あり。	○	現在、地域の理解については、少しずつ進めているが、ご近所がないことが難しい現状となっている。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	ヒヤリ・ハッと時などに必ず家族様へ報告することで、今後の対応策についても、検討していくようにしている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	体調の変化やいつも様子と違う時は、必ず申し送ることやその都度声かけするよう努めている。	○	明らかに、異変のある場合は、看護職へ相談し連携HPへ受診するようにしている。
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各カルテに薬の内容の用紙あり。その他、薬設置の場所へ薬の内容など書かれてある用紙を貼り、常に確認できるようにしている。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	食べやすい野菜料理を中心に提供させて頂くなどの工夫をしている。また、困難な便秘の際は、看護職と相談しながら、本人の負担にならないように努めている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	朝、寝る前を主に、口腔ケアご自分でできる方に関しては、声かけやそれとなく誘導、介助の必要な方については、お手伝いさせていただいている。	○	最近、入居の方で義歯の取扱の難しい方がおられました。本人外したがらず職員同士で話し合うも解決せず、家族相談することでどうやく解決の方向にあります。

グループホーム小野

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	居室内へ、お茶置いて頂いたり、いつでも好きな時に飲んでもらえるようにしている。ご自分から飲まれることのない方については、こちらから声かけするようにしている。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染委員より、マニュアルあり。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	週1で冷蔵庫の掃除、賞味期限に関しては、各職員常に気をつけるように、心がけている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	1階の、2か所にグループホームの看板を設置している。また、利用者と花などを植え、環境を整えている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の過ごしやすいうところで、なるべく席は決めないようにしている。また、季節の壁紙をつくることに力を入れている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	窓側の空間に、ソファを置きくつろげるスペースあり。また、台所の好きな方もおられるため、イスを置きいつでも座っていただけるように努めている。		

グループホーム小野

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを 活かして、本人が居心地よく過ごせるような工 夫をしている	入居時に、使い慣れた物を持ってきて頂けるよう に話しさせてもらっている。	○	その後、その都度、欲しい物のある時は、家族と 相談のもとに部屋作りしている。
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換 気に努め、温度調節は、外気温と大きな差が ないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめ に行っている	匂いの気になるところは、換気をまめに行うよう に努めている。また、温度調節も温度計にて確認で きるようにしている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かし て、安全かつできるだけ自立した生活が送れ るように工夫している	浴室に関して、浴槽にてゆっくりして頂きたいた め、手すりなどで安全に入ってもらえるようにして いる。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失 敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫してい る	衣類の準備や、お食事の準備など混乱のないよう に職員必ず一緒に、失礼のないようにお手伝いし ている。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだ り、活動できるように活かしている	日当たりのよい、ベランダを利用して花を育てた り、1階部分を借り、植物を育て楽しみをつくって いる。また、1階フロアにて、気分転換の場所とし て、運動やおしゃべりをしている。		

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

グループホーム小野

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)